

<p>奈良市</p> <p>手をつなぐ親の会だより</p>	NO 351	平成29年4月14日(金)
	発行 会長 所在地	奈良市手をつなぐ親の会 小西 英玄 〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内 Tel 0742-71-0770 http://naraoyanokai.jp/



平成29年度が始まりました

さてさて どのような一年になるのでしょうか？

今、改めて親の会の存在意義を考えさせられます。

「奈良市手をつなぐ親の会」が誕生したのは昭和38年。

人に例えていうなら当年とって 54 歳。

福祉の歴史と共に、親の会の活動内容も変化してきました。



最近、それぞれの事の“意味”を改めて考える年齢になりました。

福祉の世界における当事者団体の意味は？

奈良市における親の会の意味は？

そして、私が会長である意味は？

日々の生活で、全て“意味”を考えて生活しているわけではないのですが…。

私たちは、それぞれの事の“意味”をそれなりに位置づけ、納得して生きています。

しかし、障がいをもつ人の生きる“意味”はどの様に伝えればいいのでしょうか？

4月になり、事業所では入所式が行われています。

教育という環境から、社会人としての生活が始まります。

言葉きれいな歓迎の表現は簡単です。しかしながら、夢の実現を求めて社会人となられた人達に、私たちは当事者団体として本当に何ができるのでしょうか？

福祉現場にも新しい職員の方が入職されています。

新人職員(なかには経験者もおられますが)研修会で、障がいをもつ人への理解の方法として、「想像してみてください。もし、あなたが障がい者であったら」「どのような、ことをして欲しいですか？」「どのような、生活を誰と送りたいですか？」の話をします。

私たちの子どもは「何をして欲しいのでしょうか」「どの様に生活を送りたいのでしょうか？」我が子たちの代弁者としての親の会。

本当に我が子たちのことわかっているのでしょうか？ 私たちに便利な障害者像をつくってしまったのでは？

親にさえ理解しにくい人たち。福祉関係者の方がどれだけ理解できているのでしょうか？

この現実。

だから、親の会 が必要なのですネ。

今年度も、ともに頑張りましょう。障がいと共に生きる我が子たちのために。